

# 国 語

## (論理国語)

発 番 号	行 名	者 称略 称	教科書の記号・番号	判型	ページ数	検 定 済 年
2	東京書籍	東書	論国 701	A 5	336	令和 4 年
2	東京書籍	東書	論国 702	A 5	410	
15	三省堂	三省堂	論国 703 ◆	A 5	437	
15	三省堂	三省堂	論国 704 ◆	A 5	400	
50	大修館書店	大修館	論国 705 ◆	A 5	438	
50	大修館書店	大修館	論国 706 ◆	A 5	330	
104	数研出版	数研	論国 707 ◆	A 5	390	
104	数研出版	数研	論国 708 ◆	A 5	430	
117	明治書院	明治	論国 709 ◆	A 5	432	
143	筑摩書房	筑摩	論国 710 ◆	A 5	448	
183	第一学習社	第一	論国 711 ◆	A 5	392	
183	第一学習社	第一	論国 712 ◆	A 5	296	
212	桐原書店	桐原	論国 713 ◆	A 5	428	

※「教科書の記号・番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

# 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

論理国語		冊数	13冊
発行者の略称・教科書の番号	東書701 東書702 三省堂703 三省堂704 大修館705 大修館706 数研707 数研708 明治709 筑摩710 第一711 第一712 桐原713		

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【国語の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

### 【論理国語の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 【論理国語の内容及び内容の取扱い】

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
<p>[知識及び技能]</p> <p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>(2) 情報の扱い方に関する事項</p> <p>[思考力、判断力、表現力等]</p> <p>A 書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材の設定</li> <li>○ 情報の収集、内容の検討</li> <li>○ 構成の検討</li> <li>○ 考えの形成、記述</li> <li>○ 推敲、共有</li> </ul> <p>B 読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 構造と内容の把握</li> <li>○ 精査・解釈</li> <li>○ 考えの形成、共有</li> </ul>	<p>(1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「A書くこと」に関する指導については、50～60単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>イ 「B読むこと」に関する指導については、80～90単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>(2) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「B読むこと」に関する指導については、必要に応じて、近代以降の文章の変遷を扱うこと。</p> <p>(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章とすること。また、必要に応じて、翻訳の文章や古典における論理的な文章などを用いることができること。</p> <p>イ 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域における言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。</p>

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表

調 査 項 目		対象の根拠(目標等との関連)
a	単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)	学習指導要領第2章第1節第3款1(1)
b	読書に関する指導	学習指導要領第2章第1節第2款第3、2(3)ア
	その他の項目(各教科共通)	学習指導要領、東京都教育委員会の基本方針、東京都教育ビジョン

##### イ 調査項目の具体的な内容

###### ① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項のa、b及びその他の項目との関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

- a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)
  - ・ 各単元において、どのような資質・能力を育成できるか見取る。
- b 読書に関する指導
  - ・ 読書に関する指導についてどのように扱っているかを見取る。

《その他の項目》(各教科共通)

- ・ 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫
- ・ 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫
- ・ 安全・防災や自然災害の扱い
- ・ オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫
- ・ 固定的な性別役割分担意識に関する記述等  
\*教材名と作品名、作者名等の一覧(別紙)

###### ② 調査対象事項を設定した理由等

- a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)
  - ・ 学習指導要領の第3款の中で「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて」と言及されているので、文学国語では、各単元(各文章)における「知識及び技能」「書くこと」「読むこと」の指導の場面がどのように設定されているかという視点で質的な調査をする。
- b 読書に関する指導
  - ・ 学習指導要領では、「新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること」を身に付けることができるよう指導することとされている。このことから、読書に関する指導の場面がどのように設定されているかという視点で質的な調査をする。

《その他の項目》(各教科共通)

- ・ 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌の取扱いについては、学習指導要領に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- ・ 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- ・ 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- ・ 東京都教育委員会の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。
- ・ 東京都教育委員会の基本方針1及び東京都の男女平等参画推進の施策を踏まえ、固定的な性別役割分担意識の解消や、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」に気付いて言動等を見直ししていくなど、男女の平等を重んずる態度を養うことができるよう、その扱いについて調査する。

##### (2) 構成上の工夫(各教科共通)

- ・ デジタルコンテンツの扱い
- ・ ユニバーサルデザインの視点

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	東書
教科書番号	論国701
教科書名	新編論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「漢字と語彙」「論理の力」という学習活動が設定され、漢字や語彙についての理解を深めたり、文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めたりできるよう工夫されている。</li> <li>「言葉の扉」として「慣用句の意味」「知っておきたいカタカナ語」「紛らわしい漢字」「的確に表現するために」の4編のコラムが掲載され、言葉、文、文章についての興味・関心を喚起するよう工夫されている。</li> <li>「論理の力」として「つなげる力」「論証する力」「要約する力」「質問する力」の4つの力の育成を目指した特集教材が掲載されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「図表の読み取り方」という特集教材が掲載され、複数のグラフを比較したり関連付けたりする活動が設定されている。</li> <li>巻末に「思考ツール・発想の方法」が掲載されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「資料を整理し、テーマを吟味しよう」「仮説を立てて検証しよう」「短い論文を書いて読み合おう」「資料を活用して論述しよう」という「書くこと」の言語活動を設定し、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえるなど、系統立てて書くことの学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・社会・科学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>「文章を読み比べるために」というコラムとともに複数の評論教材を掲載した単元を設定し、文章の読み比べができるよう工夫されている。</li> <li>各教材末に「学習の手引き」「言語活動」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握するなどの学習ができる構成となっている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ブックガイド」として、書籍を紹介するページが設けられている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・「はじめに言葉がある」という教材の中に、日本人の美意識について述べられた箇所が見られる。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	・「物語の外から」という教材の中に、阪神大震災の語り部に関する記述が見られる。
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・「資料を整理し、テーマを吟味しよう」「仮説を立てて検証しよう」「短い論文を書いて読み合おう」「資料を活用して論述しよう」について、教科書の内容を解説した動画に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点	・全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインされている。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			対話とは何か	対話とは何か	細川英雄
			世界をつくり替えるために	世界をつくり替えるために	小林康夫
			少女たちの「ひろしま」	少女たちの「ひろしま」	梯久美子
			「ふしぎ」ということ	「ふしぎ」ということ	河合隼雄
			学ぶことと人間の知恵	学ぶことと人間の知恵	広中平祐
			ラップトップ抱えた「石器人」	ラップトップ抱えた「石器人」	長谷川真理子
			思考の肺活量	思考の肺活量	鷲田清一
			安心について	安心について	廣淵升彦
			弱肉強食は自然の摂理か	弱肉強食は自然の摂理か	山田俊弘
			複数の「わたし」	複数の「わたし」	松村圭一郎
			はじめに「言葉」がある	はじめに「言葉」がある	堀畑裕之
			楽に働くこと、楽しく働くこと	楽に働くこと、楽しく働くこと	小関智弘
			情景のなかの労働	情景のなかの労働	内山節
			鉄、千年のいのち	鉄、千年のいのち	白鷹幸伯
			最初のペンギン	最初のペンギン	茂木健一郎
			豊かさと生物多様性	豊かさと生物多様性	本川達雄
			物語の外から	物語の外から	岸政彦
			カフェの開店準備	カフェの開店準備	小池晶代
			鏡としてのアンドロイド	鏡としてのアンドロイド	石黒浩
			ロボットが隣人になるとき	ロボットが隣人になるとき	野矢茂樹
			言葉は「ものの名前」ではない	言葉は「ものの名前」ではない	内田樹
			科学的「発見」とは	科学的「発見」とは	小川眞里子
			知識における作者性と構造的性	知識における作者性と構造的性	吉見俊哉
			もう一つの知性	もう一つの知性	姜尚中
			ホンモノのおカネの作り方	ホンモノのおカネの作り方	岩井克人
			未来のありか	未来のありか	若林幹夫
	男	女			
評論等	85%	15%			
小説等					
詩歌					
計	85%	15%			

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	東書
教科書番号	論国702
教科書名	精選論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材末に「漢字と語彙」「論理の力」という学習活動が設定され、漢字や語彙についての理解を深めたり、文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めたりできるよう工夫されている。</li> <li>・「思考への扉」として「实在論VS.唯名論」「言語的相対論」「時代の幕開け」「アボリア」「刺激的考察」の5編のコラム掲載され、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> <li>・「論理の力」として「つなげる力」「論証する力」「要約する力」「質問する力」の4つの力の育成を目指した特集教材が掲載されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究編」において、「書くこと」の学習に必要な情報の収集、整理・分析に関する活動が設定されている。</li> <li>・巻末に「思考ツール」が掲載されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究編」において、「資料を整理し、テーマを吟味する」「仮説を立てて検証する」「社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く」「資料を活用して論述する」という「書くこと」の言語活動を設定し、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえるなど、系統立てて書くことの学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語・文化・社会・科学・哲学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>・「文章を読み比べるために」というコラムとともに複数の評論教材を掲載した単元を設定し、文章の読み比べができるよう工夫されている。</li> <li>・各教材末に「学習の手引き」「言語活動」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握するなどの学習ができる構成となっている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の冒頭で出典紹介と共に巻末の「読書案内」のページが掲載され、「読書案内」で関連する書籍が紹介される構成になっている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・「日本人の美意識」の中で、「きよし」「うつくし」という日本語を基に、西洋の美と比較しつつ、日本人の美意識について述べている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	「資料を整理し、テーマを吟味する」「仮説を立てて検証する」「社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く」「資料を活用して論述する」について、教科書の内容を解説した動画に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点	・全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインされている。



文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			いつもそばには本があった	いつもそばには本があった	國分功一郎
			ミロのヴィーナス	ミロのヴィーナス	清岡卓行
			相手依存の自己規定	相手依存の自己規定	鈴木孝夫
			科学的「発見」とは	科学的「発見」とは	小川真里子
			分人とは何か	分人とは何か	平野啓一郎
			メディアの変容	メディアの変容	土井隆義
			「リスク」と「リスク社会」	「リスク」と「リスク社会」	神里達博
			「環境」とは何か	「環境」とは何か	上柿崇英
			「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山真男
			消費されるスポーツ	消費されるスポーツ	多木浩二
			日本人の美意識	日本人の美意識	高階秀爾
			地図の想像力	地図の想像力	若林幹夫
			混じり合う言葉	混じり合う言葉	ドミニク・チェン
			言語と記号	言語と記号	丸山圭三郎
			環境問題と孤立した個人	環境問題と孤立した個人	河野哲也
			鏡の中の現代社会	鏡の中の現代社会	見田宗介
			おじいさんのランプ	おじいさんのランプ	宇野常寛
			書物の近代	書物の近代	紅野謙介
			読み書きする身体	読み書きする身体	港千尋
			原始社会像の真実	原始社会像の真実	新納泉
			ロボットは意志を持つか	ロボットは意志を持つか	野矢茂樹
			社会の壊れるとき	社会の壊れるとき	鷲田清一
			虚実の間に	虚実の間に	円城塔
			徒然草		兼好法師
			虚実皮膜論		穂積以貫
			サッカーにおける「資本主義の精神」	サッカーにおける「資本主義の精神」	大澤真幸
			抗争する人間	抗争する人間	今村仁司
			「へびににらまれたカエル」の生き残り戦略	「へびににらまれたカエル」の生き残り戦略	西海望
			地方都市を考える	地方都市を考える	貞包英之
			つながりとしての段落	つながりとしての段落	石黒圭
			やさしい日本語	やさしい日本語	庵功雄
	男	女			
評論等	97%	3%			
小説等					
詩歌					
計	97%	3%			

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	三省堂
教科書番号	論国703◆
教科書名	精選 論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「語句」「漢字」という学習活動が設定され、漢字や語彙についての理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>「コラム」として、「流れ」と「構え」「ツイッター哲学」「レジリエンスとは何か」など、16編の文章が掲載され、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「資料編」に、「情報の読み方・扱い方」「調査」「論文・レポートの書き方」など、情報を重要度や抽象度によって整理する方法などに関する活動が設定されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」として設定された4単元にそれぞれ複数の文章教材が配置されている。</li> <li>各教材末に、文章理解を促し、情報の整理・分析に関する「課題A」と協働的な学びや表現活動に関する「課題B」とが設定されており、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえるなど、系統立てて書くことの学習ができるよう工夫されている。</li> <li>各単元末に「学びを広げる」「資料」「コラム」として、関連するテーマの文章を掲載している。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語・芸術・文化・社会・科学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>各教材末に文章理解に関する「課題A」と協働的な学習活動に関する「課題B」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握するなどの学習ができる構成となっている。</li> <li>各単元末に「学びを広げる」「資料」「コラム」として、関連するテーマの文章を掲載している。</li> </ul>
b 読書に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元末に「読書の扉」が設定され、単元で取り扱った教材の出典や関連書籍が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・「『文化が違う』とは何を意味するのか?」で、「反・自文化中心的な文化相対主義」という考え方を提唱し、文化を理解することの必要性を述べている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	・「スポーツとナショナリズム」で、「四年ごとに開催されるオリンピックでは、日頃それほどスポーツ競技に関心をもたない人でも、日本代表選手や日本チームの活躍に注目し、熱い声援を送ることだろう。」などの記述が見られる。
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・単元ごとに、NHKの解説動画・「学習の記録シート」・「『読書の扉』一覧」「読書記録シート」に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点	・ユニバーサルデザインに配慮して編集されている。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			論理力と思考力	論理力と思考力	野矢茂樹
			納得の構造	納得の構造	渡辺雅子
			情報の「メタ」化	情報の「メタ」化	外山滋比古
			中身当てクイズ	中身当てクイズ	佐藤雅彦
			「流れ」と「構え」	「流れ」と「構え」	石黒圭
			ぬくみ	ぬくみ	鷲田清一
			ネット上の発言の劣化について	ネット上の発言の劣化について	内田樹
			マルジャーナの知恵	マルジャーナの知恵	岩井克人
			遅いインターネット	遅いインターネット	宇野常寛
			世代間倫理としての環境倫理学	世代間倫理としての環境倫理学	加藤尚武
			人類による環境への影響	人類による環境への影響	鷲谷いづみ
			「企業の社会的責任（CSR）について」	「企業の社会的責任（CSR）について」	萩原愛一
			「人新世」の環境危機	「人新世」の環境危機	斎藤幸平
			記号を使う動物	記号を使う動物	池上嘉彦
			言葉がつくる女と男	言葉がつくる女と男	中村桃子
			ツイッター哲学	ツイッター哲学	千葉雅也
			病と科学	病と科学	柳澤桂子
			動的平衡	動的平衡	福岡伸一
			ゲノム編集とiPS細胞	ゲノム編集とiPS細胞	山中伸弥
			iPS細胞と生命倫理	iPS細胞と生命倫理	野家啓一
			倫理の窓から見たiPS細胞	倫理の窓から見たiPS細胞	赤塚京子
			ミロのヴィーナス	ミロのヴィーナス	清岡卓行
			空白の意味	空白の意味	原研哉
			「あなただけのかえる」の見つけ方	「あなただけのかえる」の見つけ方	末永幸歩
			「なぜ」に答えられない科学	「なぜ」に答えられない科学	池内了
			AI時代の「人間」	AI時代の「人間」	堀内進之介
			人間を「機械」にする異	人間を「機械」にする異	伊藤亜紗
			「市民」のイメージ	「市民」のイメージ	日野啓三
			「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山真男
			懐疑をいかに乗り越えるか	懐疑をいかに乗り越えるか	橋爪大三郎
			情報ネットワーク社会	情報ネットワーク社会	中村雄二郎
			擬似群衆の時代	擬似群衆の時代	港千尋
			流言とメディア	流言とメディア	佐藤卓己
			答えのない事態に耐える力	答えのない事態に耐える力	帯木蓬生
			夢は何語で見る？	夢は何語で見る？	多和田葉子
			「対話」の言葉をつくる	「対話」の言葉をつくる	平田オリザ
			カタカナ語は享受すべきか	カタカナ語は享受すべきか	川口良・角田史幸
			「母語」という幻想	「母語」という幻想	温又柔
			母親のための酸素マスク	母親のための酸素マスク	宮地尚子
			講演 持続可能な社会福祉への道	講演 持続可能な社会福祉への道	広井良典
			社会的包摂と震災	社会的包摂と震災	阿部彩
			「私」消え、止まらぬ連鎖	「私」消え、止まらぬ連鎖	高村薫
			落語の中の経済学	落語の中の経済学	大竹文雄
			「欲望」と資本主義	「欲望」と資本主義	佐伯啓思
			「人新世」に生きる	「人新世」に生きる	元村有希子
			スポーツとナショナリズム	スポーツとナショナリズム	阿部潔
			南の貧困／北の貧困	南の貧困／北の貧困	見田宗介
			「文化が違う」とは何を意味するのか？	「文化が違う」とは何を意味するのか？	岡真理
			多文化共生社会の構築に向けて	多文化共生社会の構築に向けて	相原次男
			誰かの靴を履いてみること	誰かの靴を履いてみること	ブレイディみかこ
			恐怖とは何か	恐怖とは何か	岸田秀
			生命との関わり 精神科医として	生命との関わり 精神科医として	木村敏
			ある〈共生〉の経験から	ある〈共生〉の経験から	石原吉郎
			対談 褒めるということ	対談 褒めるということ	森俊夫・黒沢幸子
			コンコルドの誤り	コンコルドの誤り	長谷川眞理子
			リスク社会論	リスク社会論	大澤真幸
			「真水」はわずか二・五%	「真水」はわずか二・五%	夫馬賢治
			レジェリエンスとは何か	レジェリエンスとは何か	枝廣淳子
			コンクリートの時代	コンクリートの時代	隅研吾
評論等	73%	27%	現代日本の開花	現代日本の開花	夏目漱石
小説等			漫罵	漫罵	北村透谷
詩歌			学問のすすめ	学問のすすめ	福沢諭吉
計	73%	27%	神になった動物	神になった動物	ユヴァル・ノア・ハラリ

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	三省堂
教科書番号	論国704◆
教科書名	新 論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材冒頭に「論点を明確にする」「主張を支える根拠を捉える」など、論理的思考を促すことができるよう工夫されている。</li> <li>・各単元に「探究の視点」として、「他者」「言葉・言語」「ジェンダー」など、単元の教材と関連するテーマのコラムが掲載され、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材末に「情報を整理するために」として、教材を情報として扱う活動が設定されている。</li> <li>・「資料編」に「『思考の方法』一覧」「『思考ツール』一覧」が掲載されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に設定されている全ての単元に複数の文章教材が配置され、各教材の冒頭に「学習活動」、教材末に「情報を整理するために」が設定されている。</li> <li>・各単元末に「テーマを深めるために」「表現するために」「探究の視点」「学びを深める」などとしてコラムや文章が掲載されるとともに「情報を整理する」「意見を書く」「説得力のある文章を書く」などの「書くこと」の学習活動を行う教材が掲載されており、系統立てて「書くこと」の学習ができるよう工夫されている。</li> <li>・各単元末に「振り返る」として「書く」という項目が設けられ、単元ごとの振り返りにて書く学習活動が設けられている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語・芸術・文化・社会・科学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>・各教材の冒頭に「学習活動」、教材末に「情報を整理するために」が設定されるとともに、単元末に「テーマを深めるために」「読解するために」「探究の視点」「学びを深める」などとしてコラムや文章を掲載し、「読みナビ」という「読むこと」の課題が設定され、テーマの理解や読みを深めることができるよう工夫されている。</li> <li>・各単元末に「振り返る」として「読む」という項目が設けられ、単元ごとにテーマについて整理する学習活動が設けられている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに「ブックガイド」が掲載され、「表現にかかわる本」「教材にかかわる本」「単元のテーマにかかわる本」が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・「文化が違う」とは何を意味するのか?」で、「反・自文化中心的な文化相対主義」という考え方を提唱し、文化を理解することの必要性を述べている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	・「スポーツとナショナリズム」で、「四年ごとに開催されるオリンピックでは、日頃それほどスポーツ競技に関心をもたない人でも、日本代表選手や日本チームの活躍に注目し、熱い声援を送ることだろう。」などの記述が見られる。 ・「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」で、「ヒトラーは自国で開催されたベルリンオリンピックを、『民族の祭典』と『春の祭典』の二部作からなる『オリンピア』という記録映画に収めました」という記述が見られる。
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・単元ごとに、NHKの解説動画・「単元の振り返りシート」・「ブックガイド」一覧」に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点	・ユニバーサルデザインに配慮して編集されている。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			言葉は平等な内面を作り出す	言葉は平等な内面を作り出す	橋爪大三郎
			若者に友達プレッシャー	若者に友達プレッシャー	辻大介
			自分を捉え直す	自分を捉え直す	平野啓一郎
			他者を理解する	他者を理解する	鷲田清一
			身体〈の〉疎外	身体〈の〉疎外	黒崎政男
			一人で爆笑	一人で爆笑	飯間浩明
			カタカナ語は享受すべきか	カタカナ語は享受すべきか	川口良・角田史幸
			世界のあり方	世界のあり方	野矢茂樹
			言語は色眼鏡である	言語は色眼鏡である	野元菊雄
			それぞれのしっくりくる言葉	それぞれのしっくりくる言葉	山崎ナオコーラ
			多様な視点から考える	多様な視点から考える	前田健太郎
			女性／男性だから〇〇	女性／男性だから〇〇	瀬地山角
			そして若者論は続く	そして若者論は続く	古市憲寿
			落語の中の経済学	落語の中の経済学	大竹文雄
			ホンモノのおカネの作り方	ホンモノのおカネの作り方	岩井克人
			「展示」が伝えるもの	「展示」が伝えるもの	小田原のどか
			インターネット的価値観	インターネット的価値観	糸井重里
			なぜ私たちは労働するのか	なぜ私たちは労働するのか	内田樹
			「すべり台社会」と”溜め”	「すべり台社会」と”溜め”	湯浅誠
			コンクリートの時代	コンクリートの時代	隈研吾
			地球上の「旅人」	地球上の「旅人」	ヤマザキマリ
			誰かの靴を履いてみる	誰かの靴を履いてみる	ブレイディみかこ
			スポーツとナショナリズム	スポーツとナショナリズム	阿部潔
			「文化が違う」とは何を意味するのか？	「文化が違う」とは何を意味するのか？	岡真理
			人類のよる環境への影響	人類のよる環境への影響	鷲谷いづみ
			この十年をどう生きるか	この十年をどう生きるか	堅達京子
			「である」と「する」こと	「である」と「する」こと	丸山真男
			〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀	〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀	宇野常寛
			言語ゲームと哲学的感度	言語ゲームと哲学的感度	永井均
			日本マンガのブルーオーシャン戦略	日本マンガのブルーオーシャン戦略	中山淳雄
			ミロのヴィーナス	ミロのヴィーナス	清岡卓行
			学びとは何か「知る」ということ	学びとは何か	今井むつみ
文系と理系の壁はあるか	「知る」ということ	加藤周一			
自己推薦文を書く	文系と理系の壁はあるか	最相葉月			
多様な知識の組み合わせを	多様な知識の組み合わせを	村上陽一郎			
化学には限界があるか	科学には限界があるか	湯川秀樹			
未来のありか	未来のありか	若林幹夫			
リスク社会論	リスク社会論	大澤真幸			
	男	女			
評論等	76%	24%			
小説等					
詩歌					
計	76%	24%			

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	大修館
教科書番号	論国705◆
教科書名	論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「語彙・表現」という学習活動が設定され、語彙や表現の特徴についての理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>巻末の「知の道具箱」に「論理的に考える」「文章を書く」として、「具体と抽象」「比較・対比の視点」「段落と構成」など、論理的思考や文章上の論理展開について理解できるよう工夫がされている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末の「知の道具箱」に「情報を活用する」として、「情報収集の方法」「情報整理の方法」「著作権と引用」に関する教材が掲載されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に設定されている全ての単元に複数の文章教材が配置され、各教材末に「内容把握」「考察・発展」という学習活動が設定されている。</li> <li>各単元末に「言葉を定義する」「具体的／抽象的に書く」「立場を明確にして書く」など、「書くこと」の学習課題が設けられ、系統立てて「書くこと」の学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語・文化・歴史・社会・科学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>各教材末に、文章理解に関する「内容把握」と、協働的な学習に関する「考察・発展」という学習活動が設定され、本文の考察を深めたり、発展的に自分の考えを述べたりすることができるよう工夫されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「著作案内」として、筆者の他の著書が紹介されている。</li> <li>各単元末に「テーマと読書」として、コラムを掲載するとともに、「広がる読書」として関連する書籍が紹介されている。</li> </ul>



《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対話の精神」の中で、日本の文化に根差す日本人のコミュニケーションの特徴について言及している。</li> <li>・「余白の美学」の中で、「日本の美意識」について言及している。</li> <li>・「コミュニティから見た日本」の中で、社会的孤立度について、国際比較を具体例にしながら日本文化の特色に言及している。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元及び巻末の「付録・知の工具箱」の学習に関連する資料や、音声や動画を視聴したりするリンクが貼られたサイトに、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。</li> </ul>
ユニバーサルデザインの視点	記載なし

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			世界を広げる「批評」の言葉	世界を広げる「批評」の言葉	宇野常寛
			対話の精神	対話の精神	平田オリザ
			ミロのヴィーナス	ミロのヴィーナス	清岡卓行
			余白の美学	余白の美学	高階秀爾
			家族化するペット	家族化するペット	山田晶弘
			コミュニティから見た日本	コミュニティから見た日本	広井良典
			自己をモデル化する知能	自己をモデル化する知能	石黒浩
			科学は生きている	科学は生きている	中屋敷均
			人工知能の可能性と罨	人工知能の可能性と罨	西垣通
			敬語への自覚、他者への自覚	敬語への自覚、他者への自覚	橋本治
			「方言コスプレ」現象	「方言コスプレ」現象	田中ゆかり
			学術の専門語	学術の専門語	石黒圭
			スキーマと記憶	スキーマと記憶	今井むつみ
			絵を見る技術	絵を見る技術	秋田麻早子
			デジタル地図から見える世界	デジタル地図から見える世界	松岡慧祐
			社会的実在としての言語・法・貨幣	社会的実在としての言語・法・貨幣	岩井克人
			分かち合う社会	分かち合う社会	山極寿一
			心に「海」を持って	心に「海」を持って	山崎正和
			世界は、いまー「多文化世界」の構築	世界は、いまー「多文化世界」の構築	青木保
			グローバリゼーションと文化	グローバリゼーションと文化	渡辺靖
			現代日本の開化	現代日本の開化	夏目漱石
			「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	内田樹
			人はなぜ贈与するのか	人はなぜ贈与するのか	松村圭一郎
			記号的メディアと物理的メディア	記号的メディアと物理的メディア	伊藤亜紗
			ネットワーク上のコミュニケーション	ネットワーク上のコミュニケーション	江下雅之
			ポスト真実時代のジャーナリズムの役割	ポスト真実時代のジャーナリズムの役割	国谷裕子
			消費されるスポーツ	消費されるスポーツ	多木浩二
			人を指す言葉ー自称詞、対称詞、他称詞	人を指す言葉ー自称詞、対称詞、他称詞	鈴木孝夫
			猫は後悔するか	猫は後悔するか	野矢茂樹
			共感覚と比喻	共感覚と比喻	山梨正明
			多数決を疑う	多数決を疑う	坂井豊貴
			政治を支える心構え	政治を支える心構え	苅部直
			「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山真男
			日常に走る亀裂	日常に走る亀裂	鷺田清一
			言語と他者	言語と他者	熊野純彦
			生物多様性の恩恵	生物多様性の恩恵	鷺谷いづみ
	男	女	地球システムの中の人間	地球システムの中の人間	竹内啓
評論等	85%	15%	リスク社会としての現代	リスク社会としての現代	大澤真幸
小説等			無常ということ	無常ということ	小林秀雄
詩歌			日本文化の三つの時間	日本文化の三つの時間	加藤周一
計	85%	15%	歴史そのままと歴史離れ	歴史そのままと歴史離れ	森鷗外

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	大修館
教科書番号	論国706◆
教科書名	新編 論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「学習のポイント」として「構成をとらえる」「語句と漢字」という学習活動が設定され、漢字や語彙についての理解を深めたり、文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めたりできるよう工夫されている。</li> <li>「論理の窓」として、「「論理」とは何か」「さまざまな具体化」「対比を使いこなす」など、11編のコラムが掲載されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「統計資料を活用する」という単元が設定され、資料からデータを読み取り、適切に活用する力が身に付けられるよう工夫されている。</li> <li>巻末に「発想法・思考法」「論理をつかいこなす」という項目が設けられ、思考ツールや論理展開が図式化されて掲載されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」として「論理的に書く一小論文①」「レポートを書く」「社会に向かって」（志望先への提出書類の書き方）「問いを深めて書く一小論文②」の4単元が設定されている。</li> <li>各単元に、目的に沿って具体的な書き方を示した教材が配置され、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から題材を決めながら「書くこと」の学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語・文化・歴史・社会・科学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>各教材末に、文章理解に関する「構成をとらえる」「内容をつかむ」と、協働的な学習に関する「読みを深める」という学習活動が設定され、本文の考察を深めたり、発展的に自分の考えを述べたりすることができるよう工夫されている。</li> <li>各単元末に「「論理」への第一歩」「対比を使って主張する」「比べて読もう」など、単元のテーマを踏まえた発展的な教材が掲載され、読みを深めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「読んでみよう」として、筆者の他の著書が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・「和の思想、間の文化」という文章の中で、「古今和歌集」や「源氏物語」を具体例に日本固有の文化について言及されている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・各単元及び巻末の「付録・巻末資料」の学習に関連する資料や、音声や動画を視聴したりするリンクが貼られたサイトに、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点	記載なし

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			知の登山、知の水路	知の登山、知の水路	汐見稔幸
			「論理的な人」とはどういう人か	「論理的な人」とはどういう人か	野矢茂樹
			突然変異と進化の関係	突然変異と進化の関係	長沼毅
			ウサギの耳はなぜ長い？	ウサギの耳はなぜ長い？	上田恵介
			記号的メディアと物理的メディア	記号的メディアと物理的メディア	伊藤亜紗
			米の種類と食文化	米の種類と食文化	稲垣栄洋
			対話の精神	対話の精神	平田オリザ
			デジタル地図から見える世界	デジタル地図から見える世界	松岡慧祐
			文化としての科学	文化としての科学	池内了
			人工の自然—科学技術時代の今を生きるために	人工の自然—科学技術時代の今を生きるために	坂村健
			「考える葦」であり続ける	「考える葦」であり続ける	小川和也
			量の時代から質の時代へ	量の時代から質の時代へ	甲斐かおり
			若者の「海外旅行離れ」は本当か？	若者の「海外旅行離れ」は本当か？	小林直樹
			紙の本はなくなるならない	紙の本はなくなるならない	内田樹
			情報化と紙の本のゆくえ	情報化と紙の本のゆくえ	宇野常寛
			探究する力	探究する力	竹内薫
			補助線を引きながら考える	補助線を引きながら考える	鷲田清一
			和の思想、間の文化	和の思想、間の文化	長谷川權
			ミロのヴィーナス	ミロのヴィーナス	清岡卓行
			人類の進化から考える「心」の誕生	人類の進化から考える「心」の誕生	長谷川真理子
			ロボットに心はあるか	ロボットに心はあるか	石黒浩
			クオリアと心	クオリアと心	西垣通
			政治の本質	政治の本質	橋爪大三郎
			「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山真男
			人口減少社会の到来	人口減少社会の到来	広井良典
			未来の地図帳	未来の地図帳	河合雅司
エネルギー耕作型文明への転換	エネルギー耕作型文明への転換	槌屋治紀			
豊かさつつながり	豊かさつつながり	阿部健一			
	男	女			
評論等	89%	11%			
小説等					
詩歌					
計	89%	11%			

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	数研
教科書番号	論国707◆
教科書名	精選 論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材末に「ことばと表現」という学習活動が設定され、言葉の意味や用法等について理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>・「ズームアップ」として「芸術作品の「多面性」「近代科学の功罪」「自由からの逃走」など、11編のコラム掲載され、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> <li>・「チェックポイント」として「主張の明確化」「定義と抽象化」「語彙」「文体と構成」などが設定され、論理展開の仕方などに対する理解が深められる工夫がされている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チェックポイント」として「情報の視覚化」「背景理解と解釈」「主張とその前提」「多面的な視点」「仮説と検証」が設定され、思考ツールや「前提条件」などについて理解できるよう工夫されている。</li> <li>・「解説」として「思考ツール」が紹介されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」として設定された2単元にそれぞれ複数の文章教材が配置され、各教材末に「言語活動」として「書くこと」の課題が設定されている。</li> <li>・それぞれの単元に「探究の扉」として比べ読みのための文章やグラフが掲載されるとともに、「チェックポイント」「ズームアップ」などとしてコラムが掲載され、テーマに対する理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>・「表現編」に「報告書を書く」「小論文を書く」の二つの具体的な書き方を示した教材が配置されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術・文化・社会・科学・哲学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>・各教材末に「学習」「言語活動」として、内容理解に関する活動や協働的な学習に関する活動が設定され、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握することなどの学習ができるような構成となっている。</li> <li>・各単元に「チェックポイント」として基本的な事項を確認する教材を配したり、「ズームアップ」として読みを深めるコラムが掲載されている。</li> <li>・「探究の扉」として比べ読みのための文章が掲載されている。</li> <li>・「解説」として、思考ツール、関連するコラムや書籍紹介、法律とその解説などが掲載されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ズームアップ」として単元のテーマに関するコラムを掲載するとともに、「関連書籍」が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「『いき』の美学」の中で、日本文化に根差す「いき」という考え方について言及している。</li> <li>・「『世間』とは何か」の中で、西欧と比較しながら日本社会の「世間」という考え方について言及している。</li> <li>・「『文化が違う』とは何を意味するのか？」で、「反・自文化中心的な文化相対主義」という考え方を提唱し、文化を理解することの必要性を述べている。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元及び巻末の「表現編・資料編」の学習に関連する資料や動画、関連するウェブサイトを紹介したサイトに、二次元コードを読み込んでアクセスできるように工夫されている。</li> </ul>
ユニバーサルデザインの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーユニバーサルデザインに配慮されている。</li> </ul>

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			学問の発見	学問の発見	広中平祐
			手の変幻	手の変幻	清岡卓行
			「内的成長」社会へ	「内的成長」社会へ	上田紀行
			「具体」から「抽象」へ	「具体」から「抽象」へ	森博嗣
			国境を越える言葉	国境を越える言葉	長田弘
			ニュースとコミュニケーション	ニュースとコミュニケーション	長田弘・国谷裕子
			未来世代への責任	未来世代への責任	岩井克人
			<近代>の入口と出口の間	<近代>の入口と出口の間	吉見俊哉
			科学・技術の歴史の中での社会	科学・技術の歴史の中での社会	村上陽一郎
			科学の現場・科学と生命	科学の現場・科学と生命	坂井克之 中屋敷均
			弱いつながり	弱いつながり	東浩紀
			擬似群衆の時代	擬似群衆の時代	港千尋
			消費されるスポーツ	消費されるスポーツ	多木浩二
			偶然とは何か	偶然とは何か	竹内啓
			野生の「クジラ」と人間の「鯨」	野生の「クジラ」と人間の「鯨」	関陽子
			「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山真男
			胆力について	胆力について	内田樹
			「手」の言葉	「手」の言葉	堀江敏幸
			日本語は非論理的か	日本語は非論理的か	野矢茂樹
			日本的論理	日本的論理	外山滋比古
			「安楽」への全体主義	「安楽」への全体主義	藤田省三
			「いき」の美学	「いき」の美学	尼ヶ崎彬
			「空気」と「世間」・「世間」とは何か	「空気」と「世間」・「世間」とは何か	鴻上尚史 阿部謹也
			超えて行く翻訳	超えて行く翻訳	ピーター・バーナード
			「文化が違う」とは何を意味するのか？	「文化が違う」とは何を意味するのか？	岡真理
			学問の政治性	学問の政治性	隠岐さや香
			生命の知性	生命の知性	森田真生
			メディアのテロル	メディアのテロル	山田登世子
			人と共にある図書館の未来は明るい・図書館と「ものがたり」	人と共にある図書館の未来は明るい・図書館と「ものがたり」	高橋真太郎 嶋田学
			意志と選択	意志と選択	國分功一郎
			環境と心の問題	環境と心の問題	河野哲也
			エコロジーのミューズを求めて	エコロジーのミューズを求めて	今福龍太
			顔の所有	顔の所有	鷲田清一
			無常ということ	無常ということ	小林秀雄
			人はなぜ働かなくてはならないのか	人はなぜ働かなくてはならないのか	小浜逸郎
			我が国と諸外国の若者の意識に関する調査・希望を語る	我が国と諸外国の若者の意識に関する調査・希望を語る	杉田有史
			本歌取り	本歌取り	永田和宏
	男	女			
評論等	88%	12%			
小説等					
詩歌					
計	88%	12%			



教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	数研
教科書番号	論国708◆
教科書名	論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材末に「ことばと表現」という学習活動が設定され、言葉の意味や用法等について理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>・「ズームアップ」として「芸術作品の「多面性」「近代科学の功罪」「自由からの逃走」など、11編のコラム掲載され、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> <li>・「チェックポイント」として「主張の明確化」「定義と抽象化」「語彙」「文体と構成」などが設定され、論理展開の仕方などに対する理解が深められるよう工夫されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チェックポイント」として「情報の視覚化」「背景理解と解釈」「主張とその前提」「多面的な視点」「仮説と検証」が設定され、思考ツールや「前提条件」などについて理解できるよう工夫されている。</li> <li>・「解説」として「思考ツール」が紹介されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の教材として5編の文章教材が配置され、各教材末に「言語活動」として「書くこと」の課題が設定されるとともに、「探究の扉」として比べ読みの文章教材とグラフが配置されている。</li> <li>・単元にそれぞれ複数の文章教材が配置され、各教材末に「言語活動」として「書くこと」の課題が設定されている。</li> <li>・「表現編」に「報告書を書く」「小論文を書く」の二つの具体的な書き方を示した教材が配置されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術・文化・社会・科学・哲学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>・各教材末に「学習」「言語活動」として、内容理解に関する活動や協働的な学習に関する活動が設定され、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することなどの学習ができるような構成となっている。</li> <li>・各単元に「チェックポイント」として基本的な事項を確認する教材を配したり、「ズームアップ」として読みを深めるコラムが掲載されている。</li> <li>・「探究の扉」として比べ読みのための文章が掲載されている。</li> <li>・「解説」として、思考ツール、関連するコラムや書籍紹介、法律とその解説などが掲載されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ズームアップ」として単元のテーマに関するコラムを掲載するとともに、「関連書籍」が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漱石の生きた時代」で漱石と西洋文化との関係を例に、異なる文化間の関係性に言及している。</li> <li>・「『いき』の美学」の中で、日本文化に根差す「いき」という考え方について言及している。</li> <li>・「『文化が違う』とは何を意味するのか？」で、「反・自文化中心的な文化相対主義」という考え方を提唱し、文化を理解することの必要性を述べている。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	・「弱いつながり」の「言語活動」の中で「近年、震災などの大震災の後、社会では人と人との強い『絆』が求められる傾向がみられた。」という記述が見られる。
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・各単元及び巻末の「表現編・資料編」の学習に関連する資料や動画、関連するウェブサイトを紹介したサイトに、二次元コードを読み込んでアクセスできるように工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点	・カラーユニバーサルデザインに配慮されている。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
山月記	山月記	中島敦	弱いつながり	弱いつながり	東浩紀
朝のヨット	朝のヨット	山川方夫	手の変幻	手の変幻	清岡卓行
ころ	ころ	夏目漱石	胆力について	胆力について	内田樹
			「内的成長」社会へ	「内的成長」社会へ	上田紀行
			「具体」から「抽象」へ	「具体」から「抽象」へ	森博嗣
			添削の思想	添削の思想	外山滋比古
			国境を越える言葉	国境を越える言葉	長田弘
			ニュースとコミュニケーション	ニュースとコミュニケーション	長田弘 国谷裕子
			未来世代への責任	未来世代への責任	岩井克人
			<近代>の入口と出口の間	<近代>の入口と出口の間	吉見俊哉
			科学・技術の歴史の中での社会	科学・技術の歴史の中での社会	村上陽一郎
			科学の現場・科学と生命	科学の現場・科学と生命	坂井克之 中屋敷均
			白紙	白紙	森田真生
			擬似群衆の時代	擬似群衆の時代	港千尋
			消費されるスポーツ	消費されるスポーツ	多木浩二
			日本語は非論理的か	日本語は非論理的か	野矢茂樹
			偶然とは何か	偶然とは何か	竹内啓
			野生の「クジラ」と人間の「鯨」	野生の「クジラ」と人間の「鯨」	関陽子
			「安楽」への全体主義	「安楽」への全体主義	藤田省三
			現代日本の開化・漱石が生きた時代	現代日本の開化・漱石が生きた時代	夏目漱石 北川扶生子
			「いき」の美学	「いき」の美学	尼ヶ崎彬
			「文化が違う」とは何を意味するのか？	「文化が違う」とは何を意味するのか？	岡真理
			学問の政治性	学問の政治性	隠岐さや香
			「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山真男
			人はなぜ働かなくてはならないのか	人はなぜ働かなくてはならないのか	小浜逸郎
			人工知能はなぜ椅子に座れないのか	人工知能はなぜ椅子に座れないのか	松田雄馬
			メディアのテロル	メディアのテロル	山田登世子
			人と共にある図書館の未来は明るい・図書館と「ものがたり」	人と共にある図書館の未来は明るい・図書館と「ものがたり」	高橋真太郎 嶋田学
			意志と選択	意志と選択	國分功一郎
			環境と心の問題	環境と心の問題	河野哲也
			エコロジーのミューズを求めて	エコロジーのミューズを求めて	今福龍太
			顔の所有	顔の所有	鷲田清一
			無常ということ	無常ということ	小林秀雄
			我が国と諸外国の若者の意識に関する調査・希望を語る	我が国と諸外国の若者の意識に関する調査・希望を語る	杉田有史
			本歌取り	本歌取り	永田和宏
	男	女			
評論等	91%	9%			
小説等	100%	0%			
詩歌					
計	91%	9%			

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	明治
教科書番号	論国709◆
教科書名	精選 論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「言葉と表現」という学習活動が設定され、言葉の意味や用法等について理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>「論理の窓」として「力のある主張の条件」「批判的に読む」「要点を捉える」など、7編のコラムが掲載されており、論理展開の仕方などに対する理解が深められる工夫がされている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「表現の窓」「論理の窓」の中で、「主張を支える良質なデータ」「怪しい情報にだまされない」が設けられ、情報の扱い方について理解を深められる工夫がされている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」として設定された6単元にそれぞれ複数の文章教材が配置され、各教材末に「学習のポイント」「言語活動」として、情報の収集・整理のための課題が設定されている。</li> <li>各単元末に「表現の窓」として「力のある主張の条件」「段落を単位に書いてみよう」など、単元のテーマに沿ったコラムが掲載されるとともに、「単元の言語活動」として、情報の分析、表現など「書くこと」に関する課題が設定されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・芸術・社会・科学・哲学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>各教材末に「学習のポイント」「言語活動」として、内容を理解し、協働的な学習活動を行う課題が設定されている。</li> <li>各単元末に「論理の窓」として「三部構成を意識しよう」「要点を捉える」など、単元のテーマに沿ったコラムが掲載されるとともに、「単元の言語活動」として、「読むこと」に関する課題が設定されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読書のすすめ」が4編掲載され「関連書籍」が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「『間』の感覚」で、絵画や建築における日本と西洋の違いを例に、「間」の理解が日本文化の理解のカギであることに言及している。</li> <li>・「日本文化の雑種性」で、日本文化を純粋化しようとする願望を捨て去ることに言及している。</li> <li>・「近代都市のレトリック」で、西洋の都市と比較しながら、都市の構造上の江戸の特徴に言及している。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	・2019年の千曲川の氾濫、2020年新型コロナウイルスの世界的な感染拡大、1948年沖縄県伊江島での爆発事故、東日本大震災について扱った文章がみられる。
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	・「多様化するメディア・ツールと子ども」で、「近代社会に固有とされる性別分業化は、男女の役割を、外で働いて収入を得る夫と火事に従事する主婦とに分化させたとされるが、子どもにとって、父親とは、外で働いて家族の生計を維持すると同時に、情報を入力して家族に分配するという、掛けがえのない人として暮らしの中心に位置していたのである。」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	記載なし
ユニバーサルデザインの視点	記載なし

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			二一〇〇年の世界地図	二一〇〇年の世界地図	峯陽一
			「流域地図」の作り方	「流域地図」の作り方	岸由二
			行動変容を起こす有効な方法	行動変容を起こす有効な方法	大竹文雄
			「家族の幸せ」の経済学	「家族の幸せ」の経済学	山口慎太郎
			「間」の感覚	「間」の感覚	高階秀爾
			日本文化の雑種性	日本文化の雑種性	加藤周一
			猫は後悔するか	猫は後悔するか	野矢茂樹
			学びとは何か	学びとは何か	今井むつみ
			生命倫理と自由	生命倫理と自由	大澤真幸
			なぜ科学を学ぶのか	なぜ科学を学ぶのか	池内了
			人類による環境への影響	人類による環境への影響	鷺谷いづみ
			いのちのかたち	いのちのかたち	西谷修
			A I と憲法的価値	A I と憲法的価値	小塚莊一郎
			水墨画入門	水墨画入門	島尾新
			白	白	原研哉
			石上私淑言	石上私淑言	本居宣長
			熱帯の贈与論	熱帯の贈与論	奥野克巳
			貨幣は言葉である	貨幣は言葉である	丸山圭三郎
			経済学の宇宙	経済学の宇宙	岩井克人
			近代都市のレトリック	近代都市のレトリック	陣内秀信
			変われ！東京	変われ！東京	隈研吾
			送薛存義序	送薛存義序	柳宗元
			イメージの時代と文化産業	イメージの時代と文化産業	石田英敬
			視覚の生命力	視覚の生命力	柏木博
			多様化するメディア・ツールと子ども	多様化するメディア・ツールと子ども	本田和子
			歴史を哲学する	歴史を哲学する	野家啓一
			史学概論	史学概論	遲塚忠躬
			語りと実在のつながり	語りと実在のつながり	岸政彦
			現代社会における物語	現代社会における物語	河合俊雄
			記号論への招待	記号論への招待	池上嘉彦
消えゆく言語・方言を守るには	消えゆく言語・方言を守るには	木部暢子			
段落論	段落論	石黒圭			
憲法への招待	憲法への招待	渋谷秀樹			
デモクラシーと平等	デモクラシーと平等	齋藤純一			
私の個人主義	私の個人主義	夏目漱石			
「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山真男			
	男	女			
評論等	89%	11%			
小説等					
詩歌					
計	89%	11%			

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	筑摩
教科書番号	論国710◆
教科書名	論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材末に「構成」という学習活動が設定され、文や文章の接続の仕方などの理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>・「羅針盤」として「古典に探る論理」「物語の中の論理」「先人の文章から学ぶ」の3編のコラムが掲載されており、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> <li>・「評論入門一」「評論入門二」「論証の作法」「データの読み方」の4編のコラムが掲載されており、論理展開の仕方などに対する理解が深められる工夫がされている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「実践」として「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という学習活動が設定されている。</li> <li>・「データの読み方」というコラムが掲載されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」として設定された4単元にそれぞれ複数の文章教材が配置され、各教材末に「課題」が示され、「言語活動」として「書くこと」の学習活動が設定されている。</li> <li>・「実践」として「レポートを書こう」「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という3編の具体的な書き方を示した教材が掲載されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統・文化・歴史・社会・科学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>・各教材末に「課題」が示され、「構成」「読解」「言語活動」として「読むこと」の学習活動が設定されている。</li> <li>・「実践」として「多様な文章に触れよう―法令文・新聞記事―」「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」「複数の主張を比較してみよう―多角的読書のすすめ―」という教材が掲載され、学びを深めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部末に「読書案内」が掲載され、各単元と関連する書籍が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・「模倣と『なぞり』」で、西欧型のレッスンとひかくしながら、日本の伝統的な稽古法である「形」の模倣と「型」の習得について言及している。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・各単元の学習に関連する資料や動画、関連するウェブサイトを紹介したサイトに、二次元コードを読み込んでアクセスできるように工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点	・ユニバーサルデザインのフォントが採用されている。



文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			アイオワの玉葱	アイオワの玉葱	長田弘
			一〇〇パーセントは正しくない科学	一〇〇パーセントは正しくない科学	更科巧
			物語るといふ欲望	物語るといふ欲望	内田樹
			ファッションの現象学	ファッションの現象学	河野哲也
			地図の想像力	地図の想像力	若林幹夫
			本当は怖い「前提」の話	本当は怖い「前提」の話	川添愛
			近代の成立—遠近法	近代の成立—遠近法	橋爪大三郎
			沖縄戦を聞く	沖縄戦を聞く	岸政彦
			デジタルされる世界	デジタルされる世界	オリヴィエ・レイ／池畑奈央子
			憲法の力を生かすには	憲法の力を生かすには	木村草太
			人新世における人間	人新世における人間	吉川浩満
			現代日本の開化	現代日本の開化	夏目漱石
			変貌する聖女	変貌する聖女	川島慶子
			異時代人の目	異時代人の目	若桑みどり
			莊子	莊子	湯川秀樹
			日本の社会は農業社会か	日本の社会は農業社会か	網野善彦
			ファンタジーワールドの誕生	ファンタジーワールドの誕生	今福龍太
			生物の作る環境	生物の作る環境	日高敏隆
			貧困は自己責任なのか	貧困は自己責任なのか	湯浅誠
			模倣と「なぞり」	模倣と「なぞり」	尼ヶ崎彬
			桜が創った「日本」	桜が創った「日本」	佐藤俊樹
			清光館哀史	清光館哀史	柳田國男
			男の絆、女たちの沈黙	男の絆、女たちの沈黙	尹雄大
			トリアージ社会	トリアージ社会	船木亨
			権力とは何か	権力とは何か	杉田敦
			ビックデータ時代の「生」の技法	ビックデータ時代の「生」の技法	柴田邦臣
			「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山眞男
			読書とはツッコム事と見つけたら	読書とはツッコム事と見つけたら	山本貴光
			ピジンという生き方	ピジンという生き方	管啓次郎
			「自然を守る」ということ	「自然を守る」ということ	森岡正博
			虚ろなまなざし	虚ろなまなざし	岡真理
			物語と歴史のあいだ	物語と歴史のあいだ	野家啓一
			貨幣共同体	貨幣共同体	岩井克人
			ぼくらの民主主義なんだぜ	ぼくらの民主主義なんだぜ	高橋源一郎
			つながりと秩序	つながりと秩序	北田暁大
			真実の百面相	真実の百面相	大森荘蔵
			死の恐怖について	死の恐怖について	エリザベス・キューブラー＝ロス／鈴木晶
			ことばへの問い	ことばへの問い	熊野純彦
			物語としての自己	物語としての自己	野口裕二
			ポピュリズムとは何か	ポピュリズムとは何か	森本あんり
			思考の誕生	思考の誕生	蓮實重彦
			絵画の二十世紀	絵画の二十世紀	前田英樹
			日本文化私観	日本文化私観	坂口安吾
			主義は広大なるべき事	主義は広大なるべき事	福沢諭吉
			自由の説—「東洋自由新聞」第一号社説	自由の説—「東洋自由新聞」第一号社説	中江兆民
			何のための「自由」か	何のための「自由」か	仲正昌樹
			ものごと	ものごと	木村敏
評論等	男	女	「病氣」の向こう側	「病氣」の向こう側	田中祐理子
小説等	88%	12%	過剰性と稀少性	過剰性と稀少性	佐伯啓思
詩歌			記憶の満天	記憶の満天	西谷修
計	88%	12%	戦争と平和についての観察	戦争と平和についての観察	中井久夫

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	第一
教科書番号	論国711◆
教科書名	高等学校 論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「言葉の手引き」という学習活動が設定され、漢字や語彙についての理解を深めたり、文章表現の特徴を考えたりできるよう工夫されている。</li> <li>教材ごとに「評論のしるべ」として「外部との向き合い方」「自己形成のための物語」などのコラムが掲載されており、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> <li>「論理研究」として「推論とは何か」「帰納法のワナ」という二つの文章を掲載し、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「表現編」において、情報の整理・分析から表現に至る学習活動が設定されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「表現編」に「レポートを書く」「小論文を書く」の二つの単元が設定され、「資料を集めて情報を整理する」「得られた情報を分析して報告するテーマを絞り込む」「構成を考えてレポートを書く」「書いたレポートを評価・分析して修正する」など、それぞれ情報の収集・整理、分析、表現、推敲という流れで、体系的に「書くこと」の言語活動ができるよう工夫されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・社会・科学・哲学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>各教材末に「学習の手引き」「活動の手引き」として内容を理解し、協働的な学習活動を行う課題が設定されている。</li> <li>各単元に「評論のしるべ」という単元のテーマに関連したコラムが掲載され、読みを深めることができるよう工夫されている。</li> <li>「読み比べ」として3単元、「実用文」として2単元が配置されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「評論のしるべ」が掲載され、単元と関連する書籍が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「『私』中心の日本語」で、日本語の人称に関する語の多さや「世間」「人」などの語の使い方から、日本人の伝統的な社会意識に言及している。</li> <li>・「日本人の『自然』」で、「自然」の意味の変遷やイギリス・フランスの庭園と日本の庭園の違いに触れながら、日本人にとっての「自然」の意味内容に言及している。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手の変幻」「越境する動物がもたらす贈り物」「コミュニティー空間としての都市」「資料を集めて情報を整理する」「得られた情報を分析して報告するテーマを絞り込む」「評論キーワード一覧」について、関連するウェブサイトを紹介したサイトに、二次元コードを読み込んでアクセスできるように工夫されている。</li> </ul>
ユニバーサルデザインの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザイン（カラーバリアフリーを含む。）に配慮されている。</li> </ul>

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			天然知能として生きる	天然知能として生きる	郡司ペギオ幸夫
			自他の「間あい」	自他の「間あい」	鷲田清一
			「私」中心の日本語	「私」中心の日本語	森田良行
			日本人の「自然」	日本人の「自然」	木村敏
			手の変幻	手の変幻	清岡卓行
			越境する動物がもたらす贈り物	越境する動物がもたらす贈り物	矢野智司
			推論とは何か	推論とは何か	仲島ひとみ
			帰納法のワナ—一般化に対する疑問	帰納法のワナ—一般化に対する疑問	谷岡一郎
			働かないアリに意義がある	働かないアリに意義がある	長谷川英祐
			A I時代の社会と法	A I時代の社会と法	小塚荘一郎
			なぜ多様性が必要か	なぜ多様性が必要か	福岡伸一
			生体認証技術の発展と未来	生体認証技術の発展と未来	高野麻子
			コミュニティ空間としての都市	コミュニティ空間としての都市	広井良典
			「第二の身体」としてのメディアと技術	「第二の身体」としてのメディアと技術	若林幹夫
			対話の意味	対話の意味	細川英雄
			身体的表現の関係性	身体的表現の関係性	野村雅一
			人間という中心と、それよりも(軽い命)	人間という中心と、それよりも(軽い命)	金森修
			言語が見せる世界	言語が見せる世界	野矢茂樹
			身体の個別性	身体の個別性	浜田寿美男
			いのちのかたち	いのちのかたち	西谷修
			リスク社会とは何か	リスク社会とは何か	大澤真幸
			コスモポリタニズムの可能性	コスモポリタニズムの可能性	河野哲也
			ジェンダー化された身体の行方	ジェンダー化された身体の行方	川本玲子
			ヒトの進化と現代社会	ヒトの進化と現代社会	長谷川真理子
			目に見える制度と見えない制度	目に見える制度と見えない制度	中村雄二郎
			「である」ことと「する」こと	「である」ことと「する」こと	丸山真男
			漫罵	漫罵	北村透谷
			現代日本の開化	現代日本の開化	夏目漱石
			ローカル鉄道の改革と地域振興	ローカル鉄道の改革と地域振興	鳥塚亮
			重装備農業からの脱却	重装備農業からの脱却	藤原辰史
	男	女			
評論等	87%	13%			
小説等					
詩歌					
計	87%	13%			

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	第一
教科書番号	論国712◆
教科書名	高等学校 標準論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「言葉の手引き」という学習活動が設定され、漢字や語彙についての理解を深めたり、文章表現の特徴を考えたりできるよう工夫されている。</li> <li>「論理研究」として「推論とは何か」「帰納法のワナ」という二つの文章を掲載し、論理的思考を喚起するよう工夫されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「表現編」において、情報の整理・分析から表現に至る学習活動が設定されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「表現編」に「レポートを書く」「小論文を書く」の二つの単元が設定され、「資料を集めて情報を整理する」「得られた情報を分析して報告するテーマを絞り込む」「構成を考えてレポートを書く」「書いたレポートを評価・分析して修正する」など、それぞれ情報の収集・整理、分析、表現、推敲という流れで、体系的に「書くこと」の言語活動ができるよう工夫されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・社会・科学・哲学など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>各教材末に「学習の手引き」「活動の手引き」として内容を理解し、協働的な学習活動を行う課題が設定されている。</li> <li>各単元に「評論のしるべ」という単元のテーマに関連したコラムが掲載され、読みを深めることができるよう工夫されている。</li> <li>「読み比べ」として2単元、「実用文」として1単元が配置されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末に「読書のしるべ」が掲載され、各単元と関連する書籍が紹介されている。</li> </ul>

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「名所絵はがきの東西」で、浮世絵や観光名所絵はがきから、日本と西洋の自然観の違いに言及している。</li> <li>・「コミュニケーションの文化」で、国や民族それぞれにコミュニケーションの文化があることに触れ、日本のコミュニケーションの文化が少数派であることの認識の必要性に言及している。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい発見『新しい地球観』」「生活の中の表現 読み比べ」「人間と文化『バラと通貨はどう違う?』」「生への思索『経験の教えについて』」「資料を集めて情報を整理する」「得られた情報を分析して報告するテーマを絞り込む」について、関連するウェブサイトを紹介したサイトに、二次元コードを読み込んでアクセスできるように工夫されている。</li> </ul>
ユニバーサルデザインの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザイン（カラーバリアフリーを含む。）に配慮されている。</li> </ul>

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
※教材なし			進化が導き出した答え	進化が導き出した答え	稲垣栄洋
			新しい地球観	新しい地球観	毛利衛
			数え方で磨く日本語	数え方で磨く日本語	飯田朝子
			名所絵はがきの東西	名所絵はがきの東西	高階秀爾
			情けは人の……	情けは人の……	俵万智
			犬も歩けば棒に当たる	犬も歩けば棒に当たる	阿刀田高
			バラと通貨はどう違う?	バラと通貨はどう違う?	浜矩子
			ヒトはなぜヒトになったか	ヒトはなぜヒトになったか	長谷川真理子
			共同性の幻想	共同性の幻想	菅野仁
			鏡としての他者	鏡としての他者	榎本博明
			新しい博物学を	新しい博物学を	池内了
			哲学的思考とは何か	哲学的思考とは何か	苫野一徳
			SNSと意見の分極化	SNSと意見の分極化	岡本真一郎
			コミュニケーションの文化	コミュニケーションの文化	平田オリザ
			クマを変えてしまう人間	クマを変えてしまう人間	千松信也
			カブトムシから考える里山と物質循環	カブトムシから考える里山と物質循環	大倉茂
			経験の教えについて	経験の教えについて	森本哲郎
			僕らの時代のメディア・リテラシー	僕らの時代のメディア・リテラシー	森達也
			支え合うことの意味	支え合うことの意味	鷲田清一
			科学技術は暴走しているのか	科学技術は暴走しているのか	佐倉統
推論とは何か	推論とは何か	仲島ひとみ			
帰納法のワナ—一般化に対する疑問	帰納法のワナ—一般化に対する疑問	谷岡一郎			
	男	女			
評論等	77%	23%			
小説等					
詩歌					
計	77%	23%			

教科名	国語
科目名	論理国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	桐原
教科書番号	論国713◆
教科書名	探求 論理国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末に「表現」という学習活動が設定され、語彙についての理解を深めたり、文章表現の特徴を考えたりできるよう工夫されている。</li> <li>「評論解析A」「評論解析B」「評論解析C」という特集教材が掲載され、論理展開の仕方などに対する理解が深められるよう工夫されている。</li> </ul>
【情報の扱い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材末の「学習の手引き」の「表現」、「読解」の中の「構成〔見解の根拠〕」「構成〔対比構造〕」「構成〔具体例〕」、「評論解析A」「評論解析B」「評論解析C」の単元の中で根拠や対比構造、具体例と主張との関係を捉えさせ、論理の展開からそこから想定される推論を想定させる設問がある。主張と根拠、論の展開や構成を捉えるなど、主張とその前提や反証、情報と情報との関係、情報を抽象度などにより階層化する捉え方が身につくよう、工夫されている。</li> </ul>
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「実社会」という単元を二つ配置し、それぞれ「議事録を作る」「観光地紹介を書く」「プレゼンテーションソフトを活用して発表する」「志望理由を書く」などの目的に応じて具体的な書き方を示した教材が掲載されている。</li> <li>「書く一問いを生む」「書く一問いに答える」という二つの単元が配置され、文章教材と、問いの設定、小論文、レポートの執筆といった「書くこと」の言語活動を行う「書くこと」への挑戦「演習」が設定されている。</li> </ul>
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・芸術・哲学・政治・認識・歴史・自己など、様々な分野の評論等を通して、論理的思考力を身に付けることができる教材構成となっている。</li> <li>各教材末に「学習の手引き」の「読解」「活動」として、内容を理解し、協働的な学習活動を行う課題が設定されている。</li> <li>「知の深化」として三つの文章教材が掲載され、関連教材との比べ読みができるよう工夫されている。</li> <li>単元のテーマと関連した「表現コラム」が5編掲載され、読みを深めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
b 読書に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材の筆者と出典紹介の後で、「次の一冊」として関連する書籍を紹介している。</li> </ul>



《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉の〈意味〉と〈表徴〉」で、「〈内容的意味〉を持った言葉」と「〈イメージ〉を呼び起こし盛り上げていく言葉」という「言語使用の二種類のもの」を取り上げ、伝統的な日本文化における〈表徴〉性に言及している。</li> <li>・「霧の風景」で、式子内親王の和歌や長谷川等伯の「松林図」を取り上げながら、日本人の存在論、感覚論に触れ、風景の危機、人間の危機に言及している。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チンパンジーは『おせっかい』をしない」「そもそも心とは何か」「議事録を作る」「アノマロカリス」「権力にまつわる「秘密」」「風の風景」「全国高校生「四字熟語」総選挙」に関連する動画、音声、画像等に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。</li> </ul>
ユニバーサルデザインの視点	記載なし

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
晴れた空の下で	晴れた空の下で	江國香織	気持ちよさという罪	気持ちよさという罪	村田沙耶香
なめこと山の熊	なめこと山の熊	宮沢賢治	<small>チンパンジーは「おせっかい」をしない</small>	<small>チンパンジーは「おせっかい」をしない</small>	長谷川真理子
アノマロカリス	アノマロカリス	松浦寿輝	いのちは誰のものか?	いのちは誰のものか?	鷲田清一
変身-冒頭部より	変身-冒頭部より	カフカ/多和田葉子	科学と市民	科学と市民	池内了
			集落の創造	集落の創造	藤井明
			「もどかしさ」の融合	「もどかしさ」の融合	佐佐木幸綱
			「可能性」としての貨幣	「可能性」としての貨幣	西部忠
			動物の信号と人間の言語	動物の信号と人間の言語	大庭健
			行動としての話し言葉	行動としての話し言葉	竹内敏晴
			カフェの開店準備	カフェの開店準備	小池昌代
			世界の見え方を変える	世界の見え方を変える	宇野常寛
			イスラム感覚	イスラム感覚	藤原新也
			木を伐る人/植える人	木を伐る人/植える人	赤坂憲雄
			「物語」としての伝統	「物語」としての伝統	西江雅之
			「資本」の出現	「資本」の出現	大澤真幸
			博物館というメディア	博物館というメディア	村田麻里子
			現実・相貌・物語	現実・相貌・物語	野矢茂樹
			<small>芸術も科学も「別世界」を見せる</small>	<small>芸術も科学も「別世界」を見せる</small>	岡田暁生
			ロボットは心を持つか	ロボットは心を持つか	黒崎政男
			そもそも心とは何か	そもそも心とは何か	石黒浩
			ドローン兵器とSNS	ドローン兵器とSNS	大山顕
			器としての「わたしたち」	器としての「わたしたち」	松村圭一郎
			見えぬものを見るということ	見えぬものを見るということ	浅田次郎
			もしも宇宙に行くのなら	もしも宇宙に行くのなら	櫛島次郎
			暴力はどこからきたか	暴力はどこからきたか	山極寿一
			「である」と「する」こと	「である」と「する」こと	丸山真男
			キャラクターの身体、自動車の身体	キャラクターの身体、自動車の身体	三宅陽一郎
			<small>変身に伴う快楽と恐れ-「山月記」を通じて</small>	<small>変身に伴う快楽と恐れ-「山月記」を通じて</small>	宮原浩二郎
			<small>淋しい人間-「こころ」を通じて</small>	<small>淋しい人間-「こころ」を通じて</small>	山崎正和
			<small>ベルリンの「内」と「外」-「舞姫」を通じて</small>	<small>ベルリンの「内」と「外」-「舞姫」を通じて</small>	前田愛
			オブジェとイメージ	オブジェとイメージ	高階秀爾
			人間の領域	人間の領域	日高敏隆
			権力にまつわる「秘密」	権力にまつわる「秘密」	萱野稔人
			メディアと民主化	メディアと民主化	佐藤卓己
			足跡	足跡	原研哉
			創造としての本歌取り	創造としての本歌取り	渡部泰明
			市民社会化する家族	市民社会化する家族	今村仁司
			身体と出現	身体と出現	平野啓一郎
			知的創造のために	知的創造のために	吉見俊哉
			言葉の<意味>と<表徴>	言葉の<意味>と<表徴>	中村雄二郎
			霧の風景	霧の風景	桑子敏雄
			「貫之は下手な詩よみ」か?	「貫之は下手な詩よみ」か?	鈴木宏子
			沙魚	沙魚	ドリアン助川
			ファンタジー・ワールドの誕生	ファンタジー・ワールドの誕生	今福龍太
			ポストモダンと排除社会	ポストモダンと排除社会	東浩紀
			日本文化私観	日本文化私観	坂口安吾
			<small>娯楽について-「人生論ノート」より</small>	<small>娯楽について-「人生論ノート」より</small>	三木清
			侏儒の言葉	侏儒の言葉	芥川龍之介
			地図の想像力	地図の想像力	若林幹夫
			真理の探求と民主主義	真理の探求と民主主義	河野哲也
			<small>複雑化する人工物-法律と責任</small>	<small>複雑化する人工物-法律と責任</small>	齋藤了文
	男	女			
評論等	90%	10%			
小説等	75%	25%			
詩歌					
計	89%	11%			